

かしてつ沿線地域公共交通戦略会議（茨城県石岡市・小美玉市）

総合事業

取組み(功績)の概要 『鹿島鉄道跡地をバス専用道として整備し、定時速達性を確保』

- 平成19年3月末に廃線となった鹿島鉄道跡地という既存ストックをバス専用道として有効活用することにより、旧鹿島鉄道と同等のサービスが行えるようなBRTを導入し、定時性と速達性を確保した公共交通を実現。
- バス専用道の交差点部において、交通管理者と連携し信号機の設置や一時停止の交通規制等を行うなど、円滑な運行を確保。
- 沿線の自治会で組織される「かしてつバス利用促進協議会」や、高校生による「かしてつバス応援団」により、市内イベントでのPR活動が実施されるなど、地域が一体となったバスを維持する努力を行っている。

○事業内容

1. 鹿島鉄道跡地を活用したバス専用道の整備

- ・平成19年3月末に廃線となった鹿島鉄道跡地という既存ストックをバス専用道として有効活用することにより、旧鹿島鉄道と同等のサービスが行えるようなBRTを導入し、定時性と速達性を確保した公共交通を実現。

(平成22年8月30日より実証運行、平成24年4月1日より本格運行を開始。)

- ・行政によりバス専用道を整備し、民間バス事業者が運行を行う公設民営方式を採用。

2. 円滑な運行を行うための工夫

- ・交通管理者と連携し、バス専用道と他の道路が交差する交差点部において、交通道路のピーク時交通量を基に信号機の設置や一時停止の交通規制を実施。
- ・また、誤進入車両等の防止のため、リモコン開閉式遮断機を設置するとともに、バス専用道の路面を黄色に着色舗装することでバス専用道であることを明確化。
- ・さらに、バス停への連絡通路等を導入する等、歩行者の安全性確保策を実施。

3. 地域住民の取組

- ・バスの利用促進を図るため、沿線自治会で自主的に組織される「かしてつバス利用促進協議会」や、沿線の7つの高校から組織される「かしてつバス応援団」により、バス専用道の除草・清掃作業や市内イベントでのPR活動等が行われており、地域が一体となったバスを維持する努力が行われている。



バス専用道を走行するBRT



沿線住民による清掃活動



バス専用道の交差点部



利用促進協議会によるPR活動



取組み(功績)の概要

『地域の総力で育む魚津市民バス～潜在需要の顕在化による毎年度の利用者増～』

- 路線バスの休廃止を受け、地域住民(現在の運行NPO法人会長等)が各地区を訪問し、NPO法人によるバス運行・住民負担への理解を得ながら、NPO法人6団体を順次立上げるとともに、「魚津市民バス」の運行を開始。また、地域住民がバス停ベンチ設置等を行う「**バス・サポーター制度**」を創設するなど「マイバス意識」を醸成している。
- 地域住民のニーズ調査にあたっては、「**真のニーズ把握は、住民との対面**」で行うことが効果的。**紙面アンケートはPR効果を狙うもの**」との見解に基づき、民間事業者撤退後の不採算ルートにおける運行という厳しい与件にも関わらず、地域公共交通(バス)への潜在需要を顕在化させることで、**対前年度比で毎年度の利用者増**を達成。市民バスのPRIにあっても、「**バスくん**」「**交通安全くん**」に扮した市役所職員が地元CATVに出演する等の広報活動を展開。
- 市民バスを活用した**商店街・中心市街地活性化のイベント**(「まちなかアート」、「街めぐりスタンプラリー」)を企画・実施。また、**商店内**における「**バス待合コミュニティプラザ**」の設置等、**市民バスの運行を通じた地域コミュニティの活性化**を実現。さらに、企業からの**ネーミングライツ**・協賛金により、バス事業費を獲得。その他、**北陸能力開発大学校とバスロケーションシステムを共同開発・導入**する等、**市役所、地域のNPO法人、住民、地元商店、教育機関**等を含めた**幅広い協働体制が構築**されている。

○事業内容

1. 市内バス運行による地域コミュニティの活性化

- ・ 利用者・バス運転手等との対面によるニーズ把握等により、対前年度比で毎年度の利用者増を実現。また、地元商店との連携による高齢者の外出機会の創出や、「魚津市民バス10歳の誕生日」等のイベント企画、小学生の校外活動における市民バス活用等による地域コミュニティの活性化を実現。



「どうしたらバスを利用してもらえるか？」座談会(利用者との座談会)



地元商店玄関(敷地内)に市民バス停を設置。ドアtoドアに近い買い物環境を実現。



市内各施設に、鉄道・バスの運行路線等を分かりやすく示した時刻表を掲示



市民バスに関する各種イベントを企画・実施



市民バスを活用した校外活動



バスアテンダントの設置

2. 地域住民と市等の運行負担割合の明確化による「マイバス意識」の醸成

- ・ 事業費1/3の収入確保を条件として、地元NPO法人に市民バスの運行委託を行うことにより、「マイバス意識」を高めるとともに、行政負担額の抑制を図っている。



市長と住民がバスについて議論

3. 「バス・サポーター制度」の創設

- ・ 現在30名が登録し、バス停周辺の環境整備を実施。「市民バスとは、地域住民の活動により盛り上げ育むものである」との意識醸成及び地域住民との協働体制を構築。



サポーターによるバス停ベンチ等作成風景



バス車内にサポーター氏名を掲示

4. 教育機関との協働によるバスロケシステムの開発

- ・ 北陸職業能力開発大学校との共同開発により、安価なバスロケーションシステムを開発・導入。
- ・ パソコンや携帯電話を使用しない利用者については、「バスの現在位置お知らせ電話番号」(観光案内所等)に**電話による問い合わせ**を行うと、**バスの現在位置を知ることができる**。



バス停にバスの現在位置お知らせ電話番号(観光案内所等)を表示

5. 地元ケーブルテレビを活用した市民バスのPR

- ・ 市役所職員自らが市民バスPR放送企画案を地元ケーブルテレビ会社に持ち込み、**放送枠を獲得**。市役所職員が「バスくん」「交通安全くん」といったキャラクターに扮することで、**市民バスの関心の醸成**に努めている。



広報番組「まちなか魚津」の映像

富士宮市地域公共交通活性化再生会議(静岡県富士宮市)

総合事業

確保維持改善事業

取組み(功績)の概要

『地域住民、事業者、行政が相互に創り出す持続可能な公共交通システム』

- 従来型の補助金制度を見直した新公共交通システムを確立。地域住民、事業者、行政が一体となり、バス交通ネットワークの再構築に取り組む。
- 各事業を客観的に評価するため、事業評価指針を策定。事業ごとに目標値を設定し、持続可能な公共交通の実現を目指す。
- モビリティ・マネジメント事業(のりもの祭、乗り物教室、小学生勉強会、PRDVD作成等)を実施。市民の公共交通への参画を促し、身近で利用しやすい公共交通の実現を図った。

○事業内容

1. 新公共交通システム「宮バス」「芝川バス」「宮タク」を確立

- ・「宮バス」では従来型の補助金制度を見直し、運賃収入以外の安定的収入を確保するため、「バス停オーナー制度」や「宮バスサポーター制度」を実施。
- ・官学協同事業による、地域密着型バス案内「宮BAN」を導入。
- ・「宮タク」では地域住民の生活交通の足を確保しながら、既存の民間バス、タクシーと共存するための差別化(飛び地運行)を実施。

概要図

- 宮バス運行エリア
- 宮タクエリア
- 宮物フェーダーエリア
- 芝川バス
- 民間路線バス

北部エリア(フェーダー輸送)

北山エリア

上野エリア

山宮エリア

街中エリア

中央

富士根エリア

東

安房山エリア

南部エリア

山本エリア

宮BANディスプレイ

バス停オーナー制度

宮タク

2. 「富士宮市公共交通PDCA(事業評価)指針」を策定

- ・連携計画に基づき、共通の指標で事業を評価・検証する「富士宮市公共交通PDCA(事業評価)指針」を策定。
- ・ワークショップを通じ、事業評価指針の市民向け周知活動を実施。
- ・数値指針だけでなく、市民の満足度を評価指針を加えることにより、持続可能な公共交通実現を目指す。

平成24年度 目標値に対する総合評価

種別	数値評価	満足度評価	総合評価
宮バス 中央循環	B	A	BA (B+)
宮バス 東南循環	D	A	DA (D+)
宮バス 北循環	E	A	EA (E)
宮バス シャトル	E	A	EA (E)
芝川バス	C	C	CC (C+)
宮タク山宮エリア	D	A	DA (D+)
宮タク山本エリア	C	A	CA (C+)
宮タク安房山エリア	B	A	BA (B+)

事業評価結果

3. 特徴的なモビリティ・マネジメント事業

- ・紙芝居を使ったのりもの教室、保育園保育者アンケート、PRソング「走れ宮バス♪」「宮タク★サンバ」のDVD作成、「宮バス」を使ったオリジナルおでかけプランの作成、ポスター・チラシの作成など、特徴的なモビリティ・マネジメント事業を展開。

宮タク★サンバ (振り付け)

宮タク★サンバを踊っちゃおう! (市ホームページ限定)

宮タク★サンバ

宮タク★サンバ
作詞:高野裕章 作曲:高野裕章 編曲:石川まさゆき
唄:ばすたかの

「宮タク」のPRソングと振り付け

紙芝居を使った乗り物教室



写真入りカレンダー

若桜谷公共交通活性化協議会(鳥取県八頭郡八頭町・若桜町)

総合事業

確保維持改善事業

取組み(功績)の概要 『若桜鉄道を「公有民営」方式に転換し、安定した運行の維持による地域の活性化』

- 若桜町・八頭町が鉄道施設を保有して鉄道事業者となり、若桜鉄道が運行する、いわゆる「公有民営」方式による再構築事業(全国初の認定)の一環として地域が利用促進策に取り組み、地域の足として安定した運行の維持を図る。
- 地域の関係者が登録有形文化財(駅施設)の復元等整備や鉄道イベントを開催。
- 若桜鉄道、幹線バス、フィーダーバス(町営バス等)が連携した生活交通ネットワークを構築。

○事業内容

1. 登録有形文化財(駅施設)の復元等整備 (駅施設修繕工事等)

- ・若桜鉄道施設の国の登録有形文化財指定に伴い、昭和初期の建造による老朽化が顕著な駅施設をレトロな景観に維持するため、駅施設の復元等整備や木造ベンチの製作を行い、歴史的景観の復元を行う。(整備箇所)丹比駅、八東駅

建築的・文化的価値の再認識によるマイルール意識の高揚と観光資源としての需要喚起による鉄道の利用促進と地域の活性化



2. 多様な「若桜鉄道応援団」

- ・インターネット等を通じた、会員制「若桜鉄道サポーターズクラブ」の設立や枕木オーナー制度等の導入によって、全国規模の支援体制を構築。

3. 鉄道イベントの開催

- ・鉄道イベント開催時に行われるトロッコ列車の運行がスムーズに行える施設の整備。(整備内容)タラップの設置

若桜鉄道の観光利用の促進



4. 幹線、フィーダーバス等と連携した輸送サービスの確保と充実

- ・若桜鉄道や幹線バスと接続ダイヤを調整したフィーダーバス(町営バス等)を運行することで交通空白地域を解消した生活交通ネットワークを構築。



☆登録有形文化財への登録

若桜鉄道は昭和5年、国鉄若桜線として開設されて以来、ほとんどの鉄道施設がほぼ原形のまま残され、その施設等はおもに現役として使用されている。駅舎や橋梁、手動式転車台、給水塔といった施設をまとめて、近代化遺産として登録有形文化財に申請し、平成20年7月に指定された。

八女市地域公共交通協議会 (福岡県八女市)

総合事業

確保維持改善事業

取組み(功績)の概要 『乗合タクシーを導入して交通空白地域を解消し、同じ経費で市民生活の質向上を実現』

- 既存の路線バス、患者輸送車、福祉バス等の見直しや、乗合タクシーの導入で、地域の公共交通を抜本的に再編した。
- 地域間の移動は路線バス、地域内の移動は予約型乗合タクシーと役割分担し、交通空白地域を解消した。
- 市町村合併前の各市町村の交通対策予算と同等の額で、高水準の交通施策を実現し、飛躍的な効果を上げた。
- アンケートや広報取材等で、市民が生活の質の向上を実感していることが明らかになった。

○事業内容

1. 幹線路線バスを維持し、予約型の乗合タクシーの運行

- ・6町村が合併し、別々であった政策を計画策定から再編・統一を図り、広域移動を可能にする幹線路線バス2系統と、そこに接続する「予約型乗合タクシー」の連携によって、交通空白地域を解消。



2. 導入前と同等程度の経費で飛躍的な成果

- ・乗合率を高め、効率的な運行システムを目指すとともに、ほぼ同じ経費で大幅なサービスアップを実現。
- ・運賃(無料~100円→300円)を値上したが、年間の利用者数は増加しており、目標も達成している。

3. 乗合タクシーの利用促進

- ・住民との対話を重要視し、現在に至るまで90回を超える住民説明会を実施。
- ・市内の主な病院や商業施設(29カ所)を訪問しポスター掲示や利用者のサポート(予約代行等)を依頼するなどの取組を実施。



広報やめH23.10月号

4. 市民が生活の質の向上を実感

- ・平成23年8月の市民アンケートで、利用者の80%が「暮らしが便利になった」、38%が「外出機会が増えた」と回答。市民に交通空白解消と生活の質の向上を実感していただいた。
- ・平成24年7月の九州北部豪雨で幹線道路が寸断され、路線バスが運休した時も、乗合タクシーは1日も休まず運行し、災害にも強く市民生活の安心安全を支える乗り物としても高評価を得ている。